

すぽっとライト

マイクを持って街へ
NO. 25

四国運輸局では、消費者ニーズや消費者行政上の課題を把握し、その結果を行政に役立てていくことを目的として公共交通機関の利用者等を対象にインタビューを行っています。

今回は、徳島県で「ふれあい列車・しらさぎ号」を実施している徳島車いす友の会会長の池添章さんにお話を伺いました。



車いす友の会

会長 池添 章さん

○徳島車いす友の会について

設立は昭和51年頃で現在約57名の会員がいます。会員は、鳴門市、徳島市、板野郡、小松島市、阿南市にほとんどの会員がいます。会員は、4、50代の方が多いです。若い人にも呼びかけていますが、なかなか手をあげてくれません。

○普段の活動は？

月に1回例会を開催しています。年間の行事として、新年会、お花見、春のバス旅行、夏のバーベキュー、秋のバス旅行、忘年会です。最近忘年会は、新年会と1つにしようということで新年会と一緒にやっています。あと長年にわたって、年に1回10月に徳島駅前で共同募金を協賛でやっています。

○「ふれあい列車・しらさぎ号」について

発端は、昭和50年頃はバリアフリーという言葉もなく、全く考えられない時代でした。「階段を無くしてほしい」という願いをしようということで、「公共交通機関を利用して車いすで旅行をしましょう」という障害者とボランティアと一緒に旅行を楽しむ全国的な運動、「ふれあい列車・ひまわり号」がありました。それを徳島でもやろうという気運になって、徳島で実施するんだからしらさぎ号（徳島県の鳥）にしようということで、徳島だけが「しらさぎ号」という名前にしたんです。それで勢いがついて、徳島車いす友の会ができたんです。

現在は、徳島県ボランティア協議会と協議会が立ち上げた「ふれあい列車・しらさぎ号」実行委員会の共催で、2年に1回実施しています。今年は、5月30日に徳島県阿南市の北の脇海岸で観光地引き網やバーベキューを実施しました。

○今回の旅行について

今回の旅行の参加者は184名で障害者が64名、ボランティアが120名です。ボランティアの募集は難しい問題です。前回参加していただいた方にお知らせしました。もちろんそれだけでは足りませんから、新聞などに掲載してもらったり、知り合いを通じて呼びかけたりもしました。今回初めてボランティアで参加される方も案外多かったです。初めて参加される方については、旅行の前に簡単ではありますがボランティア講習を実施しました。

旅行をするにあたって普通は12月頃から準備を始めるんですが、今回は1月から始めたのでちょっと遅れ手間取ったりもしました。準備期間中に実行委員会を12回実施し、旅行終了後には反省会を行いました。細かいところまで打合せをしておかないと急にできるものではありません。今回地引き網とバーベキューを、車いすでは通れない砂浜で実施するということが大変でしたが、大きな問題もなく成功しました。

○「ふれあい列車・しらさぎ号」とバリアフリー

今回の旅行の列車は、3両編成の貸し切り列車です。JRのバリアフリーの新型車両で、車いすに乗ったままトイレまで行けるんです。普通の車両は真ん中の通路は車いすでは通れないんですけど、新型車両は通れるんです。新型車両はだいぶん楽になりました。牟岐線の駅のホームも随時かさ上げされており、乗り降りが非常に楽にできるようになりました。車両に乗り込むスロープも高低差が少ないものですから、降りるときも前から降りても大丈夫な程の緩やかなスロープです。スロープは駅員さんがかけてくれます。団体ではない一人の旅行でも前もって連絡しておけば、駅員さんがやってくれます。我々がやってきたおかげで、牟岐線にも（バリアフリーの）車両を配置してくれる様になりました。徳島駅にもエレベーターができたし、しらさぎ号が発足した頃の想いは達成されたように思えます。



インタビュー実施日平成22年6月14日（月）聞き手：常包、目戸